

放浪する・セルゲイ草柳の世界

作家名：セルゲイ草柳

会場：gallery 176 (ギャラリー イナロク)

大阪府豊中市服部元町1-6-1／阪急宝塚線 服部天神駅(梅田から11分)下車 徒歩1分

会期：2018年3月30日(金)～4月10日(火)

休廊日：4月4日(水)、5日(木)

開廊時間：13:00～19:00

企画：gallery 176 木村準、友長勇介



(c) Sergei Kusayanagi

作品説明：

セルゲイ草柳は写真家であり、詩人であり、科学者であり、幽霊である。

彼が撮ったおびただしい数の写真を見ていると、それはいつ、どこで、誰が、何のために記録したのかを見失う。我々は日ごろ、写真を見て、どのような現場の雰囲気の中で作者が何を感じながら撮影したものであるかを無意識に探ろうとする。セルゲイ草柳の写真はそれを許さない。さながら時間や場所を超越した存在である幽霊がほうぼうを彷徨い、その網膜近くに染み込んだ視線を裏側から見ているかのような感覚に陥る。

手漉き和紙を手で裂いて印画紙とし、画像を定着させる乳剤には泥や草の汁、時には自らのDNAが混ぜられる。でき上がった写真はひび割れ、皺が寄り、ムラがあり、さながら動物や人間のひからびた皮のようだ。これを写真と呼んでいいのだろうか。そう、標本だ。セルゲイ草柳自身の標本。この世を彷徨い、あらゆるものを吸収して絞り出された彼の肉体。その表面の一部である。幸運なことに私はこの標本をいくつか所有しているが、それは箱に入れられることを拒み、壁に貼られることを拒む。

結果として私の部屋に立てかけられ、時には机の上から私を観察している。

幽霊には存在する理由がある。それはこの世に対する愛ではないかと思う。

山縣 勉（写真家）

展示概要：

2010年～2017年にかけて、パリ、ベネチア、日本を撮影した作品

手透き和紙や流木に泥や草の汁を混ぜた自作の乳剤を塗布しプリントをした作品

A3サイズ 20点、A4サイズ 10点、流木作品 10点

*展示枚数が変わることがあります。



セルゲイ草柳（せるげい くさやなぎ）

1940 年 横須賀市出身。少年時代、基地の少年として送る。鉄一貫 60 円。アカはその 3 倍
この時代で私の私は終わる。それ以降は現在まで付録

1972 年 宮崎県の山中にて自給生活

1979 年 ロンドン ハムステッドに移住

1983 年 福岡へ帰国し、仕事の傍らフィルムによるモノクローム作品始める

2005 年 購入した印画紙に違いを感じ、手漉き和紙を支持体にしての印画紙を自作し始める
以後、全ての作品を焼き付けている。その後苦労する

2013 年 4 月 作品を風呂敷に包み、妻と二人でヨーロッパのギャラリーを歩き回る。ベネチア、
ローマ、マドリード、バルセロナ、モロッコ、パリ、ポルトガル（コインブラ、アルファマ）
撮影もしていたため、暴漢に会うこと数度。もうダメか…と思ったこと 2 度、その都度妻に助
けられる

2013 年 秋、ポルトガル コインブラにて個展

秋、富士フィルム福岡にて個展

2014 年 5 月 パリ バスティーユにて個展

10 月 福岡県美にて個展

11 月 パリ ルーブル美術館 フォトフィーバーにて展示

2015 年 9 月 東京銀座ギャラリーにて個展

10 月 富士フィルム福岡にて個展

11 月 パリ ルーブル美術館 フォトフィーバーにて展示

2016 年 11 月 パリ ルーブル美術館 フォトフィーバーにて展示

11 月 田川市美術館開館 25 周年記念アーティストの反骨精神「沸点」に出展

関連写真集

タイトル：空（くう）の中の散歩Ⅱ

作家：セルゲイ草柳（写真家）

判型：261 x 369 mm / 80ページ

価格：5,000円 + 税

関連イベント

ギャラリートーク「放浪する作家の独り言」

日時：2018年4月7日(土) 13:00～14:30

出席者：セルゲイ草柳（写真家）

料金：500円（定員 35名）

*終了後、セルゲイ草柳さんのサイン会を予定しています（イベント参加者限定／サインは会場で購入された写真集に限定させていただきます）。

お問い合わせ先

「放浪する・セルゲイ草柳の世界」に関するご質問、メディア掲載用画像の提供等のお問い合わせは、下記までお願い致します。

gallery 176（ギャラリー イナロク）

担当：友長勇介

tel：050-7119-9176

e-mail：info@176.photos